

INDEX 2 国連Weeksの成果を振り返る／ソフィアの視点 3 後援会総会・会長のご挨拶／地球市民講座が開講 4 上南戦 2年ぶりの単独優勝／浴衣デー

## 教皇フランシスコと学生たちのオンライン対話が実現

## Building Bridges Across Asia Pacific

6月20日、森永恵理華さん(組織神学専攻後3)、大門由依さん(死生学専攻後1)、有澤里穂さん(外英3)が、日本代表として、Building Bridges Across Asia Pacific : A Synodal Encounter between Pope Francis and University Students アジア太平洋地域に橋をかける～教皇フランシスコと大学生が「ともに歩む」ための出会い～(シカゴヨロラ大学主催、教皇庁ラテンアメリカのための特別委員会共催)に参加した。

この「Building Bridges Initiative」は、教皇フランシスコが2022年に始めたプロジェクトで、世界各地の学生がローマ教皇と直接対話するという史上初の試みである。今回は東アジア・東南アジアをはじめとするアジア太平洋地域の国々の学生が参加した。

教皇との対話に先立ち、各国の学生たちは地域ごとにテーマを設定。グループディスカッションを重ね、教皇と代表学生によるオンラインミーティングに臨んだ。日本の参加学生27名(上

智大学19名、エリザベト音楽大学5名、他大学3名)は、角田佑一神学部准教授と山内保憲神父(カトリック・イエズス会センター)の指導のもと、5月に計3回のミーティングを行い、持続可能な地球環境、経済的正義、人間の総合的発展のために、具体的な解決方法やプロジェクトについて深く考え、意見を分かち合った。

そして迎えた6月20日、各国の代表メンバーはグループでまとめた発表内容を教皇に伝え、自由闊達な会話が繰り広げられた。

角田准教授は、「学生たちはグループでの分かち合いを通じて、対話の豊かな実りを体験できた。教皇フランシスコとのオンライン対話では、教皇が大きな愛をもって学生のさまざまな質問に丁寧に答えてくださり、そのメッセージから多くの気づきを得ることができた」と語った。

当日の様子は、シカゴヨロラ大学のYouTubeチャンネルで視聴することができる。



カトリック・イエズス会センターでライブストリームを見る日本メンバーたち

2024年度 学業優秀賞授与式  
成績優秀者168人に授与

7月5日、6号館101教室で2024年度上智大学学業優秀賞授与式が行われた。この賞は、学業成績などにおいて極めて優秀と認められた2年次から4年次の学部生に贈られるもので、今年度は各学部から推薦された168人が表彰された。

式の冒頭、曄道佳明学長が「いま学部時代に学んでいることは、皆さんの軸となり、価値観の広がりを生み、やがてそれらは今後社会を生き抜いていくうえでの基盤となるでしょう。この先はその基盤から何が発揮されるか考えることが重要になってきます。この学業優秀賞が皆さんにとってひとつの契機になることを強く期待します」と未来への期待を込めた祝辞を述べた。

続いて、永野仁美学生センター長が選考経過を報告し、学科ごとに受賞者の名前が読み上げられた。曄道学長から各学科の代表学生に賞状が手渡され

謝辞を述べる  
佐久間真愛さん受賞者をたたえる  
曄道佳明学長

ると、会場は温かい拍手に包まれた。

最後に、受賞者を代表して佐久間真愛さん(国教4)が登場。「日本にいたがらも多様なバックグラウンドを持つクラスメイトと共に議論を深めていくなかで、自分の意見を発信することの重要性を学び、さまざまな考え方に触れることができました。ここで得た知識と多角的な思考力を活かし、日本と海外の架け橋となる人材へと成長していきたいです」と謝辞を述べ、式は終了した。

「インドウィーク」  
シンポジウム・ワークショップ開催  
インド工科大学デリー校との協定締結を記念

7月1日から3日、四谷キャンパスで「上智大学インドウィーク」が開催された。

本学は、急速な経済成長と豊富な市場機会を有するインドをグローバル化推進の戦略的展開地域のひとつと位置づけ、今年4月にインド工科大学(デリー校、以下IITD)と連携協定を締結した。今回、両校の協定締結を記念し、シンポジウム「日本とインドの未来：大学の役割」や、上智大学とIITDの研究者によるワークショップが行われた。

初日のシンポジウム「日本とインドの未来：大学の役割」では、シビ・ジョージ駐日インド大使による基調講演が行われた。続いて、IITDのゴメス教授、東洋大学大学院のクマール教授、帝人インディアの岡田氏、JICA南アジア部の伊藤氏、JETRO企画部の中山氏、JSTさくらサイエンス推進本部の西川氏が登壇し、元本学理工学部教授で現IITDの東善郎客員教授の進行により、産学官の視点から日本とインドのパートナーシップの現状と今後の展望について議論が交わされた。

2日目には、理工学部主催のワークショップ「機械工学—ヘルスケアと産業機械—」が開催され、両大学の研究発表とラポツアーが行われた。また、経済学部主催のワークショップ「University Students in India」では、日印両国の大学生活の様子が報告された。



基調講演を行うシビ・ジョージ駐日インド大使



専門家が登壇したパネルディスカッション両国の学生が、留学先としての日印それぞれのメリットについて紹介した後、意見交換と活発な質疑応答が行われた。

3日目には、理工学部主催のワークショップ「持続可能な都市型交通」が開催され、東京大学、千葉大学、(株)本田技術研究所や東京地下鉄(株)からもゲストスピーカーが登壇し、先進的な研究発表と活発な質疑が行われた。

いずれの会場にも在学学生だけでなく他大学からも参加者が訪れ、本学とIITDとの協働が、日本とインドの大学・産業界との連携強化につながることを大いに期待しつつ、3日間の日程を終了した。

## 2024年度学業優秀賞 受賞者一覧

◆神学部	社会学科	牧浦 穂菜美	市河 里菜
神学科	大森 涼奈	松下 遥	遠 健也
小泉 日和	堀川 沙愛	志波 茜里	今井 美月
岡野 日和	LIU SIYI	高木 帆乃里	越智 悠那
石田 咲子	社会福祉学科	LAU KAR HAY CARMAX	西村 明里紗
◆文学部	井原 由南子	小向 彩佳	大野 他1名
哲学科	萩原 結衣	桐ヶ谷 帆香	◆国際教養学部
清端 響太郎	金子 美紀	木俣 明日香	国際教養学科
小林 由	看護学科	細川 未智	内野 彩乃
一井 彬人	橋爪 彩加	田中 小菜美	内野 彩乃
史学科	山崎 優菜	◆外国語学部	FOLLMER RYAN MATTHEW
興田 茉莉阿	山崎 碧衣	英語学科	井上 望星
宮 ひなた	◆法学部	内藤 好乃	LE DUONG NGOC TRAM
木村 帆花	法律学科	KIM CHANMEE	HUANG WEIHSUAN
国文学科	早坂 菜々恵	古殿 千遥	DSOUZA VANESSA
藤江 桜	天野 航陽	KIM SOJUNG	本谷 菜那
池田 茉莉百	岡村 朋香	有澤 里穂	龜山 愛華
菊岡 駿一郎	古川 暉彩	菊地 侑里伽	佐久間 真愛
◆英文学科	上野 友倫子	栗田 えま	IBANEZ KYLA FAYLON
龜谷 結花	鈴木 幸世	東 怜未	井上 菜々香
福田 碧海	松井 仁和	石田 とねり	DAI SHUMIN
飯沼 百楓	井守 朝陽	内川 恵利加	◆理工学部
貴志 尊	井上 大輝	杉浦 萌夏	物質生命理工学科
吉澤 理子	国際関係法学科	長手 愛奈	本間 いまり
吉澤 亜琳	塩中 大翔	◆ドイツ語学科	瀧本 彩華
ドイツ語学科	西 まな美	柏原 伶音	森木 菜津美
山田 莉那	石井 健斗	河内 陽菜乃	武智 真由
土屋 吏紗	川口 真奈	城山 月花	佐々本 瑛美
前原 琳	平本 夢乃	フランス語学科	山口 菜奈
フランス語学科	古川 瑛理	山田 陽斗	長井 珠李
佐藤 華奈瑠	地球環境法学科	原口 佳子	柴田 柚
谷口 萌絵	中村 百花	北原 未彩	小倉 響
佐藤 愛由子	加藤 千夏	◆イスパニア語学科	機能創造理工学科
新聞学科	石垣 沙良	高橋 樹	栗林 蓮
吉田 彩里	◆経済学部	麻生 知佐	佐竹 若葉
ESTEVEZ TAKASHIMA ELISA	経済学科	小俣 逸花	本田 悠騎
本正 凜	石井 玲欧	小俣 逸花	及川 大樹
相良 怜音	川崎 正雄	奴賀 さくら	岡田 麟
多田 英樹	櫻田 優美	中島 陽菜	岡田 維摩
マドロン 美濤	湯浅 創太	高橋 瑞生	土橋 裕太
野口 莉佳	吉川 啓太郎(パートホッカー)	高橋 瑞生	渡辺 勇太
島田 遥	甲斐 さら	◆ポルトガル語学科	山澤 隼
林田 真子留	後藤 広樹	RYU ICHIN	情報理工学科
◆総合人間科学部	會田 茉莉	UTIDA JOAO	香村 優奈
教育学科	鷹野 瑞香	富山 真歩	池永 壮真
河合 遥音	青山 春花	◆総合グローバル学部	田中 美羽
服部 有彩	遠藤 穂乃香	総合グローバル学科	神田 悠希
三橋 大雅	CAO PEINING	菅井 絢香	岸本 智行
心理学科	花里 和葉	飯田 芽生	岡田 藤未
花里 和葉	三田村 理沙	TANG JIAYAN	由依 由依
三田村 理沙	小栗 彩加	中野 舞音	井口 珠実
小栗 彩加		林 美奈	上田 恭平